

《2024年6月 テーマ別選書》『福澤諭吉 教育論』3月に刊行しました。

1984年から採用された紙幣の1万円札の肖像が2024年、40年ぶりに福澤諭吉から代わります。キャッシュレス時代が進む中、紙幣はただの支払い手段を超えて文化や歴史を映し出す鏡でもあります。図書館を通じて福澤の思想と業績に触れ、紙幣が持つ深い意味を再認識する機会として、教育を含む人文書を選書しました。教育理念としては、個々の能力を引き出し、社会貢献できる人材を育成することにあります。福澤の業績は日本の教育制度の発展に大きな影響を与え、現代の教育にも継承されています。

| NDN一件名<br>ジャンル・ISBN           | 書影<br>初版刊行年月  | 書名・編著者名<br>装丁・価格・電子版有無                        | 内容紹介   |
|-------------------------------|---|---|--|
| 370.4<br><br>教育・慶應義塾<br>教育・思想 |    | 福澤諭吉 教育論<br>独立して孤立せず<br><br>福澤諭吉著 山内慶太・西川俊作編著 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代にも通じる福澤諭吉の教育論を集成！</li> <li>・『福澤諭吉著作集』第5巻を増補改訂した決定版。</li> <li>・慶應義塾のモラルコード「修身要領」も収載。</li> </ul> 教育者・福澤諭吉はどのような理念に基づき慶應義塾を創立し、教育事業を実践していったのか。現代人にも示唆に富む、その教育論を集成。慶應義塾のモラルコードである「修身要領」も収載した決定版。 |
| 9784766429435                 | 2024年3月刊  | 四六判並製524頁 本体2,300円 電子：なし                      |  |
| 379.9<br><br>福沢 諭吉<br>家庭教育    |   | 新版<br>福澤諭吉 家庭教育のすすめ<br><br>渡辺徳三郎著／山内慶太編       | 慶應義塾幼稚舎でながく教諭をつとめ、幼稚舎長の重責を担った著者が、みずからの教育経験をふまえつつ福澤諭吉の教育論を再構成し、現代の保護者に家庭教育の大切さを語った著作に、教育にかかわるエッセイを付録を増補。新版の刊行にあたり、著者の教育観と人柄が滲む珠玉のエッセイを、さらに3本加えた。  |
| 9784766423853                 | 2016年10月刊   | 四六判並製384頁 本体2,400円 電子：あり                      |  |
| 159.5<br><br>人生訓(児童)<br>家庭教育  |  | 現代語訳<br>童蒙おしえ草 ひびのおしえ<br><br>福沢諭吉著 岩崎弘現代語訳    | 明治5年、福澤諭吉は西洋の道徳的な物語を集めたイギリスの“Moral Class-book”という本を、『童蒙おしえ草』という題名で日本に紹介しました。「ひびのおしえ」は、福澤諭吉が38歳の時、自分の息子たちに毎日一つずつ、家庭での約束や決まり事を半紙に書いて与えたものです。本書は、慶應義塾幼稚舎教諭の訳者が、今の子どもたちに、保護者の方や先生方といっしょに読んで、いっしょに考えてもらいたいと願って、わかりやすい現代の言葉づかいに直したものです。      |
| 9784766412031                 | 2006年1月刊  | B5変上製368頁 本体3,000円 電子：なし                      |  |

| NDC              | 件名  | ISBN          | 書影 | 書名                         | 編著者名                    | 刊行年  | 本体価格   | 内容紹介  | 電子版 |
|------------------|---|---------------|----|----------------------------|-------------------------|------|--------|---|-----|
| 289.1<br>121.6   | 福沢, 諭吉<br>(1834-1901)                         | 9784766428384 |    | 福沢諭吉の初期思想<br>近代的概念の受容と変容   | 姜兌琬著                    | 2022 | 4,500  | 幕末～明治初年、福沢諭吉が読み込んだ西洋の書籍と、それを翻訳・翻案して刊行した書籍の文章とを丹念に検討し、そこにあらわれる翻訳思想、西洋の近代的概念の受容・変容過程を読み解く。                                | ○   |
| 289.1            | 福沢, 諭吉<br>(1834-1901)                         | 9784766418002 |    | 福澤諭吉事典<br>【慶應義塾創立150年史資料集】 | 福澤諭吉事典編集委員会編            | 2010 | 14,000 | 福澤諭吉生誕175年・慶應義塾創立150年記念出版。<br>今、時代をひらく勇気と出会う。66年の生涯とその思想、日常の素顔など福澤の全身像がみえる画期的な個人事典。現代の課題に通じる多くの知見に溢れる。                  | —   |
| 289.1            | 福沢, 諭吉  | 9784766416831 |    | 文明と啓蒙<br>初期福澤諭吉の思想         | アルバート・M・クレイグ著 足立康・梅津順一訳 | 2009 | 3,500  | 西洋の啓蒙思想を自在に駆使して、日本を近代化へと牽引した福澤の思想的源泉を実証的に考究する。ハーヴァード燕京研究所の碩学による待望の福澤論。  | —   |
| 289.1            | 福沢, 諭吉  | 9784766416541 |    | 明治人の観た福澤諭吉                 | 伊藤正雄編                   | 2009 | 3,200  | 福地桜痴、中江兆民、徳富蘇峰、三宅雪嶺、陸羯南など福澤の同時代人や、明治に生まれた正宗白鳥、津田左右吉らによる福澤諭吉評価を、原典から集成。『資料集成明治人の観た福澤諭吉』（1970年当社刊）の復刊（改題）。                | —   |
| 289.1            | 福沢, 諭吉  | 9784766414967 |    | 福澤諭吉と門下生たち                 | 服部禮次郎著                  | 2009 | 3,500  | 福澤諭吉とその門下生の絆に着目し、慶應義塾草創期から20世紀にかけて、福澤の精神を受け継いだ門下生たちの人生模様を、講演録・史蹟めぐり・墓所掃苔記などで紹介する著述集。                                    | —   |
| 311.21           | 政治思想—日本<br>福沢, 諭吉<br>(1834-1901)              | 9784766419306 |    | 福澤諭吉の政治思想                  | 小川原正道著                  | 2012 | 4,500  | 近代日本政治史・思想史における重要性にもかかわらず、十分な検討が行われてこなかった福澤の議会論、憲法論、天皇論、外交論等を分析。これらの領域にあらわれた政治思想の構築過程と構造を論じ、様々な反響、政府との相剋を新資料に基づき明らかにする。 | —   |
| 319.102<br>289.1 | 福沢, 諭吉<br>(1834-1901)<br>朴, 泳孝<br>(1861-1939) | 9784766417630 |    | 福澤諭吉のアジア                   | 青木功一著                   | 2011 | 8,500  | 福澤諭吉は何ゆえ「脱亜論」を執筆したのか。『時事新報』の詳細な解説によって新たな福澤論の地平を拓きながら、志半ばで早世した著者の先駆的な論考を集成。福澤諭吉研究における貴重な遺産を現代に甦らせる。                      | —   |
| 367.1<br>289.1   | 女性問題—日本—歴史—明治時代                               | 9784766419078 |    | 福澤諭吉と女性                    | 西澤直子著                   | 2011 | 2,500  | 「男子亦この書を読むべし」。明治の日本で、「男女平等」を公言した福澤諭吉。彼の近代化構想に女性はいかなる位置を占めたのか。福澤の真意を読み解き、今もなお古びることのない「近代人」としての肖像を鮮やかに描き出す。               | ○   |
| 367.3<br>289.1   | 福沢, 諭吉<br>(1834-1901)<br>家族—日本—歴史—明治時代        | 9784766421163 |    | 福澤諭吉とフリーラヴ                 | 西澤直子著                   | 2014 | 2,800  | 近代社会における新しい家族の姿はどうあるべきなのか。人びとの一生を左右する「家」をどのように考えるのか。さまざまな機会に揺れ動きながら、両性関係と家族のゆくえを見つめ続けた福澤諭吉のあらたな側面に迫る。                   | ○   |